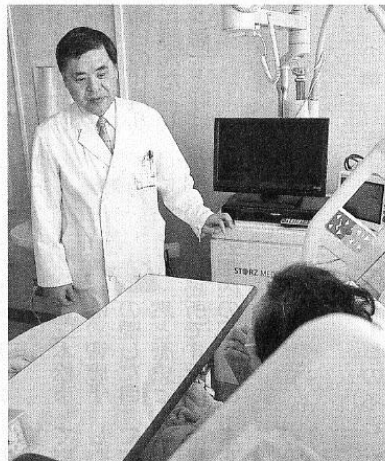


2012年(平成24年)7月5日(木)

読売新聞朝刊

※転載許可取得済



体外衝撃波治療を受けるため入院中の女性を診察する下川センター長

東北大病院

## 循環器センター開設

心臓病内科と外科連携強化

で治療が難しい患者も急増している。

東北大病院(仙台市青葉区)に、心臓病への内科治療と手術の連携を強化した「循環器センター」が今月1日、開設された。よりきめ細かなチーム医療や、研究成果の臨床への応用、人材育成などの充実につながることを期待される。

センター長に循環器内科の下川宏明教授、副センター長に心臓血管外科の齋木佳克教授が就任した。両科合同の症例検討をこれまでの週1日程度から、ほぼ毎日行うようにする。これまで病棟の別の階にあった心臓病患者の一般病床(78床)と、心臓血管疾患の集中治療室(8床)を同じ階に配置した。

下川センター長は「救急から慢性期まで切れ目のない循環器診療を提供できる」と話す。

連携強化で、手術が難しい狭心症患者向けに同大が開発した「体外衝撃波治療」の適用拡大や、新薬、医療材料の研究開発も進める。

同病院ではこれまで心臓移植が5人、肺移植が43人に行われ、移植を待つ患者は心臓で13人、肺で60人になる。心臓と肺の両方の移植を手がけている東日本唯一の高度医療機関で、東日本一円から重症の心臓病患者が集まり、近年は高齢化